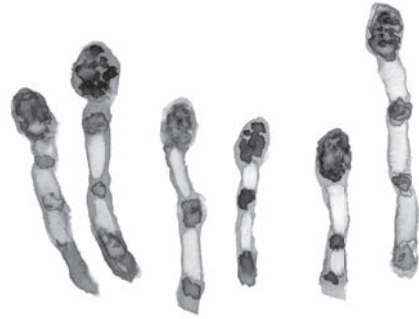


# センター試験の 分析と対応

渡辺 聡

東京学芸大学附属特別支援学校



## ① 2012年度「筆記試験」の分析と対応

### 1. 全体的な傾向

今年のセンター試験[筆記]でもコミュニケーション能力と読解力を試す問題が出題された。設問形式が若干変わった箇所があるが、全体的な傾向は変わっていない。レベルとしては例年通り基本的な問題が多く、平均点は昨年度より1点強高くなり、124.15点となった。第3問～第6問の語数が昨年度より200弱増加し、総語数は4,000語を超えた。

コミュニケーション能力をみる問題としては、  
第1問A：単語をきちんとした音で発話する能力  
第1問B：単語を正しいアクセントで発話する能力  
第2問B：対話がスムーズに流れるよう、適切な発話を考える能力  
第3問A：初出の単語や表現でも、全体の流れから意味を類推する能力  
第3問B：発言の内容を要約する能力  
が例年通り求められている。

また読解力では、  
第3問C：パラグラフ単位で文章の構成を論理的に思考する能力  
第4問：グラフや表、説明文を参考にして文章を正確に読み取る能力  
第5問：留学をした2人のスピーチを読み、英文やイラストを正確に把握する能力  
第6問：論説文の流れを正確に追い、論の展開をつかみながら長文を読み取る能力  
が試される。いずれも文章の全体的な流れをつかんだ上で、的確な情報を読み取る日頃の学習姿勢が問われる。

### 2. 具体的内容分析

#### <第1問>

形式と問題数、配点は昨年度と変わらず。

#### A 発音 (8点：解答数4)

基本的な単語の発音(母音字と子音字それぞれ2問)を問う問題。/ju:/と/u:/の区別(問1)はやや難。黙字(gh(問3))も出題された。

#### B アクセント (6点：解答数3)

単語のアクセントのある箇所を問う問題。昨年度と同様、今年度も2、3、4音節の語が1つずつ出題された。昨年度は見出し語がなくなったが今年度は復活し、見出し語とアクセントの位置が同じ語を選ぶ形式であった。個々の語の正確なアクセントがより問われるようになった。カタカナにしたときのアクセントに惑わされやすい語(modern, athlete, career(問1)、musician(問2)、identity, automobile, electronics(問3))も複数出題された。

#### <第2問>

形式と問題数、配点は昨年度と変わらず。

#### A 語彙、語法、文法 (20点：解答数10)

語彙、イディオム、動詞の用法等を判断する問題。対話形式での出題数は2に増えた(昨年度は1)。動詞の用法を問う問題(The important meeting will have finished by the time she arrives.(問3))は頻出である。イディオムやコロケーションの力を併せて要求する問題(depending on(問2)、on the condition that～(問6)、not～either(問7)、carry out(問10))も相変わらず多い。基本的な動詞や形容詞(adopt(問1)、vertical(問5))、スペリングの似た語、関係詞、不可算名詞や同義語等の幅広い知識もあわせ持っておきたい。

#### B 対話文完成 (9点：解答数3)

対話文を完成させる問題。発話数は4～5。空欄で何を言っているのかを次のせりふから導き(nowからwait for about an hourを[問1]、can waitからnowを[問3])、副詞(Then, [問2])から文脈の流れをつかむ。会話でよく使われる表現(be supposed to～[問2]、can't make it(問3))等に慣れておくことも大切である。

#### C 語句整序 (12点：問数3、マーク数6)

各文の中に含まれる語彙・語法を使い、意味の通る文にする問題。選択肢の数がすべて5になり(昨年度は6)、1問は対話形式(昨年度と同じ)である。動詞の用法(形式目的語(find it～to…[問1]、force+O+to～[問3]))や付帯状況(with+O+過去分詞[問2])等、文法の知識も併せて確認しておきたい。

#### <第3問>

形式と問題数、配点は昨年度と変わらず。

#### A 語やフレーズの意味類推 (10点：解答数2)

下線部の単語やフレーズの意味を全体から類推する問題。対話やパラグラフの中でどのように論が展開しているか、状況が推移しているかを正確に読み取り、ヒントとなる語(句)を探して想像力を働かせる。

#### B 発言の意図の要約 (18点：解答数3)

3人の発話の要旨を選ぶ問題。ある事柄を別の表現で言い換えている(it(=watching television too much) can delay their(=young children) speech developmentをyoung children who watch television a lot may not learn to talk as early as they should.で[空欄29]、as long as the viewing time is limited and the contents of the programs are checkedをif it(=watching TV program) is carefully monitoredで[空欄30])ことが多いので、3人の発言の主旨を理解し、まとめる柔軟な読解力が必要とされる。

#### C 適文補充 (18点)：解答数3)

指定された空欄に、選択肢で与えられた適切な文や文の一部を補う問題。

選択肢の文中、及び挿入箇所前後の代名詞や指示語、接続する語(句)に注意を払い、論が正しく展開するように当てはめていく。[空欄32]では直前のIndeed,があること、[空欄34]の文頭にはIn

conclusion, とあるように結論の段落になるが、最終文のAlmonds and peanuts are plants which differ greatly, despite their notable similarities.につながるものを選ぶ。選択肢のdistinctの意味がわかっていることが前提となる。

#### <第4問>

形式と問題数、配点は昨年度と変わらず。

#### A グラフ読み取り問題 (18点：解答数3)

本文とグラフや図を参考に、展開される論からの確かな情報を得る力を問う問題。本文で与えられた情報を順次グラフに当てはめ、情報の内容を言い換えた表現を読みこなす。第3段落の第1文のeven after seasoning, there will always be some small changes in size due to changes in the humidity of the surrounding airと、選択肢②が同じ内容であることを正確に読み取れるか(問3)、がポイントになる。

#### B 広告読み取り問題 (15点：解答数3)

広告から適切な情報を読み取る問題。設問を読み、与えられた条件をもとに、合致する情報がどこにあるのかを探し出していく。問いに関する情報は上から順に出てくるわけではないので、設問の求める情報がある箇所(複数の情報を合わせる場合もある)を的確につかむことが大切である。

#### <第5問> (30点：解答数5)

形式と問題数、配点は昨年度と変わらず。

2人の発言から、事実の確認とそれぞれの感想の違いをとらえる。ここでも、本文の(I) didn't have much time to interact with them(=my host family).が、選択肢ではHis host family had little time to spend with himに[問2]、本文のI wish I had learned more about Canadaの意図が、選択肢ではThere were not many classes about Canadian culture.[問3]で表されている。それぞれの発言から、ある事項に対する考え方を丁寧に拾い上げる力が求められる。

#### <第6問> (36点：問数6、マーク数9)

形式ではA、Bに分かれ、Aでは内容把握、Bでは表を埋める形式で段落の要旨を選ぶ問題である。問題数、配点は昨年度と変わらず。

段落構成を問う問題が、段落の要旨を順に並べ替える問題になった(設問B)が、論全体の意図をまとめる問題(問5)は例年通り出されている。各パ

ラグラフのポイントをつかみ、話がどのように展開し、筆者の主題の要点は何か、という広くかつ深い読解力が求められる。また、正解の選択肢は本文で使われていない単語や表現で求められる場合も多いので、基本的な類義語を理解する力も必要である。

### 3. 昨年度から変化のあった点

- ①総語数が300語弱増え、2年連続で増加し、4,000語を超えた。特に増えたのは  
第2問Bが3割強（約50語）  
第3問Aが4割強（約60語）  
第4問Aが3割強（約130語）である。
- ②第1問Aで、アクセントのない母音の発音を問う出題はなくなった。
- ③第1問Bの見出し語は復活した。
- ④第2問Aで対話形式が1問から2問に増えた。
- ⑤第2問Cで選択肢の数が6から5に減った。
- ⑥第4問Aで本文中の空所補充はなくなった。
- ⑦第4問Aでグラフの項目を特定する問いが復活した。
- ⑧第6問で段落構成を問う問題が、段落の要旨の流れを選択肢から選ぶ問題から、4か所に当てはまる要旨を当てはめる問題になり、Bとして独立したものとなった。

### 4. 新しい傾向が見られる点

- ①一昨年度、昨年度と総語数が増加している。
- ②第6問で、段落構成を問う問題が、段落の要旨を順に並べ替える問題になり、設問Bとして独立した。

### 5. 日頃の学習で大切なこと

- ①多面的に語彙を増やす  
ただ単に単語の1つの意味だけを覚えるというのではなく、英語での定義、反意語、同義語、接頭辞・接尾辞、品詞の転換、自動詞・他動詞等、語彙を様々な方法で多面的に増やしたい。語彙に関連性を持たせると、未知の語に遭遇したときにも想像力を働かせてなんとか意味がつかめるようになる。また、カタカナになっている語の英語と日本語の意味の差異や発音・アクセントに注意して覚えるのも1つの方

法であろう。

#### ②語と語のつながり（語法、Collocation）に関心を持つ

ある単語を頭に入れる際、その語がどのような語と一緒に使われることが多いのか、英語としての語と語の自然なつながりに気を配る習慣を身につけておきたい。単独だとイメージしにくかったり、覚えにくいような単語も、自分が理解しやすい組み合わせなら、より効率的に覚えられる。

#### ③英語を聞き、自ら口にする

アクセント・強勢・構文（主語と述語の区切れや省略等）に注意を払って日頃から英語を聞き、音読をする。単語一つ一つの音に注意を払い、そして文全体の内容を理解しながら読み進む。何回も繰り返して読み込んでいけば、なによりも英語の音に対する興味・関心が必ずや増し、同時にリスニング試験の対策にもなり得る。

#### ④わからない語があっても、前後関係からその意味を類推する習慣をつける

すべての単語の意味がわからなくても主旨は理解できる、と余裕を持って文章を読み進めたい。未知語に出合うとすぐに辞書で意味を調べる読み方をしていると類推力、想像力が身につかなくなってしまう。

#### ⑤論理展開を重視した読解力を養う

どんな読み物でも最後まで通して読み、論の展開がどのようになっているかをパラグラフ中心に考える。接続語を手掛かりに、パラグラフがどのように構成されているか、全体の論調を捉えてから各パラグラフのキーセンテンスを探し、要旨をまとめる。「木を見て森を見ず」にならない大局的な読み方を心がけたい。

#### ⑥多読を心がける

80分で4,000語を超える分量の英語を読みこなすには、普段から500～1,000語の文章をある程度のスピードで読むことを習慣とすることが大切である。授業では精読を中心に行っているが、時には様々な分野、テーマ、形式の比較的易しい文章に多く触れるような機会を与え、分量をこなす読み方も覚えさせたい。

## II 2012年度「リスニング試験」の分析と対応

### 1. 全体的な傾向

過去5年間ほぼ同じ出題形式である。解答数、配点いずれも昨年度と同じである。読まれる総語数（1,100語強）は昨年度とほぼ同じ。読み上げ速度は昨年度とほぼ同じで自然な感じであるが、音声面でのリダクションもあり、聞き取りにくい箇所もあったと思われる。問題音声も設問ごとに2回流された。比較的素直に英語の内容を問う基本的な問題だが、平均点は昨年度よりやや下がった（今年度24.55点、昨年度25.17点、一昨年度29.39点）。

### 2. 具体的内容分析

<第1問>対話ビジュアル（12点：解答数6）

●男女2人の対話を聞き、適切なイラスト、数字、文を選択する

●各対話の総語数：30語前後

文や単語を選ぶ設問3問、イラストを選ぶ設問2問、場所を選ぶ設問1問の形式は昨年度と同じである。対話に出てくる語（句）や数字がそのまま答えになるとは限らず、簡単な計算をする設問もある。キーワードは2番目～4番目のせりふに出てくる。一部聞き逃すと正答にたどりつけない設問（I'm at the one outside.〔問6〕）や、日常会話でよく使われるフレーズ（I've got to〔問4〕、We can't make it〔問5〕）、日本語とは逆の意味になる言い回し（下記下線部参照）も出てくるので、集中して聞く姿勢も問われる。

問4

Woman: Are you training for tomorrow's competition?

Man : Yeah, I've got to do better. Last time I came in second.

Woman: That's not so bad.

Man : Yes, it is. I want to win this time.

<第2問>対話応答補充（14点：解答数7）

●対話を聞き、最後の発言に対する相手の応答を選択する

●各対話の語数：約20～約30語

相手の述べたことへの自然な反応を考える。昨年度は応答の前のせりふはすべて平叙文であったが、

今年度は疑問文で終わる対話の設問も2つあった。また、That would really help.（読み上げ文）やNo problem.（選択肢）〔問7〕、cut downやhurt（読み上げ文）〔問9〕、it went well（読み上げ文）〔問10〕、You go on to the meeting. I'll catch up later.（読み上げ文）〔問13〕等、日常会話でよく使われるフレーズにも慣れておきたい。

<第3問A>対話内容Q&A（6点：解答数3）

●対話を聞き、その内容についての問いを読み、答えを選択する

●各対話の総語数：50語前後

5W1Hで始まる質問の答えを対話から探す。せりふの数が8に増えたものが出題された（昨年度は5か6のみ）。対話を最後まで聞き、状況や流れの変化をきちんと捉える。事前に選択肢を読み、最初のせりふを聞いた段階で場面が想像できるようにしたい。話者が相手に同意しているのかそうでないのか、といった話の流れをつかむ力とともに、選択肢のsearch for the book〔問15〕が、せりふのlook it up in the database firstの言い換えであることを理解し、せりふのWhy don't we plant that first?のthatが前文のspinachを指す〔問14〕といった内容を正確に把握する力も求められる。

<第3問B>対話ビジュアル（6点：解答数3）

●対話を聞き、その内容からわかることを表の空所に埋める

●対話の総語数：約140語

聞き得た情報を順に図表に当てはめていく。選択肢の数字がそのまま読まれるとは限らないし、指示代名詞thatが何を指すのに加え、more than twice the distance of the third stageの計算も必要とされる設問（解答欄④）のように、情報が揃いきらなないと答えられない場合もある。また、情報は上から順に出てくるとは限らない（解答欄④が一番最初に埋まる）ので注意が必要。

<第4問A>

Short Passage 内容Q&A（6点：解答数3）

●Short Passageを聞き、その内容についての質問を読み、答えを選択する

●各せりふの総語数：100語前後

問20

Towering skyscrapers are a symbol of modern society. In the late 1800s, new technological developments made very tall buildings possible. One development was steel building technology. Before that, architects were required to create thicker stone walls to support taller buildings. These walls were extremely heavy and allowed less room for windows and light. After mass production of steel was introduced, architects began to use steel frames to support a building's weight. Steel was much lighter and stronger than stone, while taking up much less space. At the same time, elevator technology and fire-resistant building materials also helped make skyscrapers possible.

質問文から事前に推測した状況をもとに、出てきた情報を一つ一つ積み重ねていき、求められる情報の所在を明らかにする。選択肢では答えとなる語を別の表現で言い換えたりまとめることがある（上記下線部をSteel frames allow more space for windows.に〔問20〕場合も多いので、要点をつかむ力も求められる。

<第4問B>説明文内容Q&A（6点：解答数3）

●説明文を聞き、その内容についての質問を読み、答えを選択する

●説明文の語数：200語強

質問文に目を通し、事前にどれだけの状況を想定できるかがポイント。全体の内容を総合的に理解する力と、求められた情報を正確に取り出す力が必要であるが、ここでも選択肢では答えとなる箇所が別の表現で言い換えられている（people wanted clothes as bright as flashy as their hopes for the futureがThey reflected the dreams of many Americans.に〔問24〕）ことがある。話の流れが変わったり固有名詞も出てきたりするので、メモを取りながら質問されるポイントの箇所を絞って聞くことも大切である。また、1回目と2回目の読み上げの間に約45秒のポーズがあるので、情報が出揃った段階で各問の答えを絞り、2回目は確認の作業に当てたい。

### 3. 対応のポイント

#### ①状況・場面を想像する力を育成する

事前に問題指示文、選択肢、イラスト、状況説明文等に目を通し、内容を推測しておく。聞く前に精神的なプレッシャーをできるだけ少なくしておくことも正しい聞き取りへの第一歩である。

#### ②英語特有の表現に慣れる

Come on. One piece won't hurt.〔問9〕、it went well〔問10〕、care for〔問14〕、～ is worth looking into、I doubt～〔問16〕のようなフレーズは聞けるだけではなく、意味が自然に頭に入るまで聞き慣れておくようにしておきたい。

#### ③対話の流れや方向性をつかむ

リスニングでは、話の流れを理解し、これからどのような展開になるのかを推測する能力が求められる。その際、途中で展開が変わり、最初に出てきた情報が最後まで同じとは限らない。方向性を予測した上で、最後まで丁寧に流れを確認したい。

### 4. 日頃の学習で大切なこと

#### ①英語の音を聞くことを習慣にする

「継続は力なり」と言われるように、1日5分間でも英語を聞き続けることが大切である。センター試験の英語は自然で標準的なものである。様々なメディアを使って英語の音やリズムを継続的に耳に入れておくことを習慣としておき、英語を聞く抵抗感をできるだけ少なくしたい。耳に入ってきた音をそのまま口に出すshadowingも有効な学習方法の一つであろう。

#### ②聞いた内容を論理的に組み立てる力を育てる

リスニング力をつけるには、聞いた音を頭の中で論理的に組み立て直す作業が必要である。教科書等の、ある程度分量がある文章の内容を理解した上で英語を聞いて論の展開をつかむ。そして音読、Qs & As、dictation等の基本練習を日頃から行い、論理的思考力も養っておきたい。

#### ③語彙を増やし、自分で表現する練習をする

提供される情報の内容を理解するためには基本的な語彙力が必要である。知らない単語は聞き取ることができないし、あやふやな理解では誤った情報を受け取ってしまう可能性がある。また、内容を整理し、別の語や表現を用いて言い換える練習も積んでおきたい。